



バッタ広場の蝶

板橋区の蝶を調査する会 柏原 建樹

板橋区の蝶を調査する会は年に数回赤塚城址・赤塚植物園で蝶の観察を行っています。赤塚城址から二の丸跡を経て赤塚植物園に至る地域を蝶の同一の生息環境と考えています。

1. バッタ広場のある赤塚城址（以下”城址”）は約27mの標高があります。区立美術館や溜池公園の標高は約10mですので、それよりも17m高い位置にあります。蝶は高い場所に好んで集まる習性があり、城址は観察に適した場所と言えます。
2. 城址北側は広い草原であり、明るく開けた場所です。360度の視界が広がり蝶の観察にはもってこいの場所です。草原にはシロツメクサ、スイバ、タンポポ、オオバコ、ゲンバインナズナ等が生えています。バッタ広場は北側の一番奥にあり広場の周囲にはエノキやムクノキの

赤塚梅まつりに出展します みんな来てね

3月4日(土)・5日(日)10時から3時まで。トンボ池前で

トンボ池を見てね

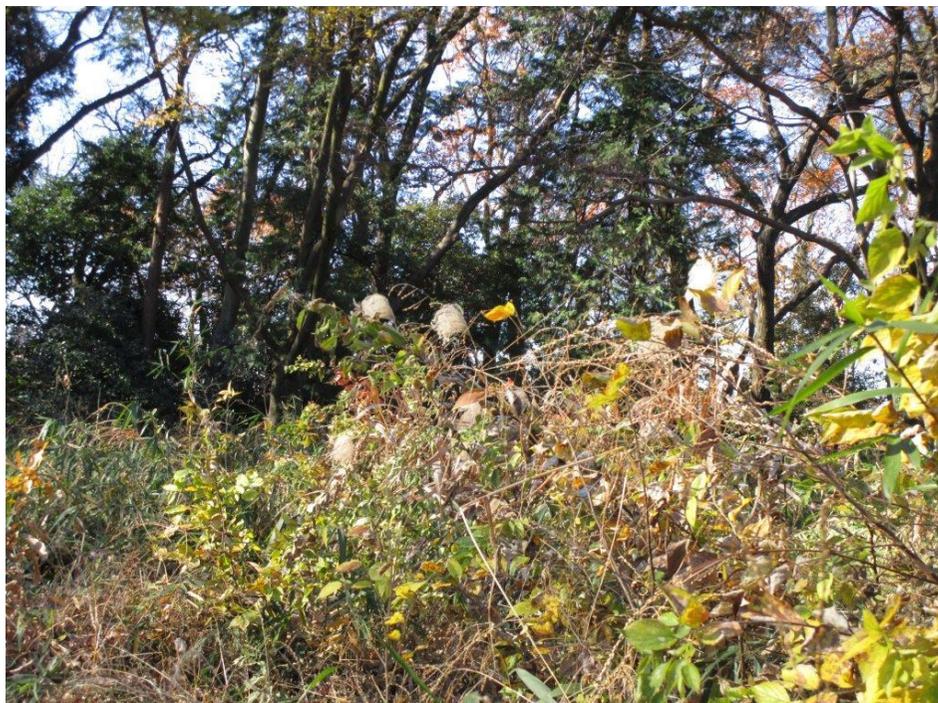
私たちはトンボ池で悪戦苦闘しています。水草が生えていますが、ヤゴはまだすめません。カエルの卵はかえってオタマジャクシになりましたが、途中で全滅しました。赤塚城址の変化に富んだ地形（崖線）と森、自然豊かなこの場所でありふれた水辺の小さな生き物がすめるよう、試行錯誤を続けています。

今年もやりますノコギリ体験コーナー

また、子ども達には、公園の剪定枝や竹を一生懸命ノコギリで切って、枝からはペンダント作り、竹からは花入れや鉛筆立てをつくります。

若木が生え、中にはエノキ、クヌギ、クスノキの若木が点在しています。草本ではススキ、ササ、クズ、ガガイモ、ツルマメ、タンポポ、オオイヌノフグリが見られます。

3. 城址は周囲をコナラ、クヌギ、サクラ、エノキ等の高木で構成される森に取り囲まれています。その中に広い草原がありますので、林縁部と明るく開けた場所を好む蝶を観察できます。その中でバッタ広場は城址の一番北側にあり、周りを高木に囲まれた状態にあります。バッタ広場は若木と草本のみが生えている場所であり、その上に明るく広い空間が出来ていることから蝶が集まり易い環境となっています。



4.



4. バッタ広場のエノキの若木にはゴマダラチョウとアカボシゴマダラ（多分テングチョウも）、クヌギの若木にはムラサキシジミ、クスノキの若木にはアオスジアゲハが産卵します。クズの新芽にウラギンシジミの卵を観察しました。ススキやササが生えていますので、セセリチョウやジャノメチョウの仲間も発生しているものと思われます。
5. それではバッタ広場を訪れる蝶は、他にどのような種類がいるのでしょうか。

(1) 3月～4月上旬

越冬したキタテハ、ヒメアカタテハ、テングチョウ、キタキチョウ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミ。その年に発生したナミアゲハ、キアゲハ、モンシロチョウ、ツマキチョウ、ルリシジミ。

(2) 4月中旬～6月上旬

ナミアゲハ、クロアゲハ、アオスジアゲハ、キアゲハ、カラスアゲハ、ナガサキアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、キタテハ、ヒメアカタテハ、コムスジ、ゴマダラチョウ、アカボシゴマダラ、ツماغロヒョウモン、コムラサキ、ヒメジャノメ、サトキマダラヒカゲ、ルリシジミ、イチモンジセセリ、キマダラセセリ、チャバネセセリ等。

(3) 7月中旬～10月

ナミアゲハ、クロアゲハ、アオスジアゲハ、キアゲハ、カラスアゲハ、ナガサキアゲハ、モンシロチョウ、キタキチョウ、コムスジ、ヒメアカタテハ、ゴマダラチョウ、アカボシゴマダラ、ツماغロヒョウモン、ヒメウラナミジャノメ、ヒメジャノメ、ヒカゲチョウ、サトキマダラヒカゲ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、ムラサキシジミ、ツバメシジミ、ウラナミシジミ、ウラギンシジミ(写真)、イチモンジセセリ、チャバネセセリ。



(4) 11月

モンシロチョウ、キタキチョウ、キタテハ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミ。

バッタ広場は蝶を観察する場所として良い条件が揃っています。巨木に囲まれた広場に若木と何種類かの草本が生えている状況は、丁度、森の中の巨木が倒れ、陽が差し込むようになった場所と似ていると思います。このような場所に幼木・若木が育つとより多くの種類の昆虫が見られるとの報告があります（2009年1月 森林総合研究所）。同じ報告の中で、蝶を含む昆虫は、樹齢が増すと種類が減少するとされています。

バッタ広場を現在の状態に保持することで、これからも多くの種類の蝶を観察できる場所であり続けると思います。

アメリカザリガニと どう付き合うか

2015年に、トンボ池に湧水が到達するようになり、トンボのヤゴが生息できるようと考えて池に手を入れて改良しました。が、昨年（2016年）も努力は実りませんでした。原因はやはりザリガニ！です。

ザリガニには、在来種のニホンザリガニ（北海道に生息）、冷たい水にいる外来種のウチダザリガニと、どこにでもいるアメリカザリガニがいます。北海道にもアメリカザリガニとウチダザリガニが侵入し、在来種のニホンザリガニがおびやかされています。私たちが普通にザリガニと呼ぶのはアメリカザリガニのことです。

アメリカザリガニは日本に移入されたのは1927年（昭和2年）ウシガエルの餌用として鎌倉食用蛙養殖場に20匹持ち込まれ、その後、養殖池から逃げ出した個体が1960年頃には九州まで分布域を広げた。ウシガエルも養殖池から逃げ出す（あるいは、故意に捨てられる）例が続出してアメリカザリガニ同様に全国各地に分布を広げたのは皮肉という他ない。日本では全国各地に分布するが、人の手によって日本に持ち込まれ分布を広げた動物だけに、分布地は都市近郊に点在する（ウィキペディア）とあります。

みなさんは、ザリガニを最初に見たのは、いつ、どこでしょうか？
また最近はどこで見えていますか。学校の教室ですか？田舎の実家ですか？それとも板橋区の公園ですか？

ザリガニとの出会い

猪鼻さんは埼玉県川島町（川越に北）の出身です。戦前はザリガニを見たことがなかったそうですが、はじめて見たのが昭和22年頃。友達の親戚のある伊佐沼（川越市）に連れていってもらい、ザリガニを釣りました。それから2、3年経って川島に現れ、近くの川でザリガニを捕り食べたそうです。頭などはニワトリの餌になりました（余談ですが、ザリガニを餌にした鶏が生む卵の黄身は赤味が強いですよ）。

ザリガニが鎌倉に入ってから約20年で埼玉に到達したことになります。

石橋さんは千葉県茂原の農家の出身。昭和23～24年頃からもう少し後の昭和25、6年頃まで、イネをザリガニ被害から守るために、田植えの前からイネが丈夫になるまでの間、田んぼの水の出入口ごとに「ウケ」をかけてザリガニを捕ったそうです。県道にはバケツを持って町から来た人たちが並び、ザリガニをとっていました。ザリガニは田んぼを守るためと同時に食料でした。いっぱいかかった小さいザリガニは佃煮にし、大きいのは尻尾の身を搔揚げに混ぜたり、

キュウリと酢味噌和えなどにして夕食になりました。頭や胸はニワトリが食べます。ザリガニを食べたニワトリの卵は黄色が濃くなりました（今の卵はなにか色が濃くなる色素を餌に混ぜているはず）。昭和27、8年頃、田んぼに石灰窒素を撒くようになると、ザリガニやドジョウが死んで浮き上がり、そうするとザリガニを食べなくなりました。

私が最初にザリガニを見たのは、子どもの頃住んでいた滋賀県近江八幡です。イナゴをとりに行った田んぼで父がザリガニを捕まえて帽子に入れて持って帰り、帽子を泥だらけにしたと母に怒られていました。昭和25年か26年のことです。

瀬田さんは横浜育ち、昭和26年～30年頃、みんなで近くの池にザリガニ捕りに出かけ、バケツ2杯ほどザリガニを捕って帰り、尻尾の身を搔揚げにしておかずにしたそうです。ザリガニは食料、おいしかったそうです。

山田さんは、昭和27年頃は太田に住んでいて、太田公園のボート池に、割いたスルメに尻糸で結びつけた棒きれが釣竿となり、日曜日ごとに、近所の遊び仲間とザリガニ釣りに行っていました。また、見沼田んぼにも足を伸ばして、見沼用水でも、田んぼの中でもザリガニ釣りをやっていました。その頃に、もう少し自然に興味を持っていれば、見沼田んぼでホタルが見られたんではないかと…。

私の夫は、昭和28年盛岡から世田谷にきてはじめてザリガニを見たそうです。田んぼ横の水路でザリガニとりをして遊び、とってきたザリガニを金魚鉢などにいれて、しばらくするといなくなっていた、多分死んだか母親が捨てたようです。食べるものだとは思わなかったそうです。

戦後、近くの田んぼや川にいるザリガニは食料源でした。同時にまちなかの子ども達にはザリガニ釣りは遊びでした。さまざまな成り行きでザリガニは日本中に拡散しました。

今でも、ザリガニは人気者です。昨年夏、赤塚トンボ池にザリガニ釣りにきた親子がいました。ネットで調べたらザリガニ釣りの穴場だと書いてあったそうです。トンボ池は立ち入り禁止です、とお話し、やっとあきらめて帰ってもらいました。またある学校でザリガニ釣大会をするので、トンボ池でザリガニを調達したいという話が環境課からありました。ザリガニを減らすのだから喜ばれると思ったのでしょうか。釣ったザリガニをどうするつもりだったのでしょうか。私はお断りしました。みなさんはどう思われますか。

以前、板橋区の公園課でザリガニ釣大会をしたことがありました。また、熱帯環境植物館でザリガニをテーマにしたイベントがあり、「ザリガニと遊んで、もらえるよ」のような宣伝文句があったので抗議しました。行政は、自然教育より、子ども達にサービスすることを優先します。また多くの人は、自然とのふれあいが大切だと言います。「自然とのふれあい」は殺し文句です。どういふのが「ふれあい」なのでしょう。ザリガニは大きさも手頃だし、格好の遊びの相手で、親も子どもも欲しがります。小さい子どもを喜ばせたいのは人情で、以前はよく言い聞かせて、ザリガニをあげてしまうことも多々ありました。

ザリガニは買った生き物（ペット）と違って、責任を持たずに気楽につきあえる遊び相手なのかもしれません。

身近な自然を取り戻そうという試みが各地で始まりビオトープ池がつくられました。その各地のビオトープ池がザリガニに悩まされています。目黒の自然教育園にもザリガニがいます。生き物の移動が生態系に大きな影響を与えることが明らかになってきた今、自然とふれあうマナーも考えたいです。

ザリガニは、ビオトープにはいりけない生き物です

私が数十年ぶりにザリガニを見るようになったのは、身近な自然の回復に取り組みビオトープをつくるようになってからです。ザリガニも土があって水草が生える自然の池が好きで、水が腐って死んだ池になるといなくなってしまう。

右上は1998年3月に大仏下につくったミニトンボ池の4ヶ月後の写真です。翌年にはクロスジギンヤンマのヤゴが何10匹も羽化しました。

写真中は2001年6月に撮影、水の中には植えたササバモ（写真下）が繁り、「こうあってほしい」と願い、実現した水辺の自然です。翌年、ザリガニが現れて・・・



この池にザリガニが放されたのです。水草が減り、セリやクレソンが茎だけになってもザリガニの存在を疑わず、虫に喰われたと思い込んでいました。ザリガニがウオウヨいることがわかったのが2002年6月(写真右は2002年9月撮影)。湧水量が少ないので水は汚れる一方になりました。さらに水が汚れ、アオコが発生し、汚れがさらにひどくなるとザリガニもいなくなってしまう。



昨年、赤塚トンボ池を棚田状の池にリニューアルしました。ザリガニが増えにくく、水草が生え、管理作業もしやすい浅い池を考えましたが、水位の管理がむずかしく、深い状態が続いています。寒い間は池底にもぐって冬眠していたザリガニは、水温が上がるとどっと出てきて、オタマジャクシは全部食べられました。夏トンボが来て産卵しましたが、冬の調査ではヤゴは1匹もいませんでした。ザリガニはなんでも食べ、繁殖力は強く、水が干上がれば土にもぐって時を待ちます。利用者の多い公園の中にあり、ここだけザリガニ立ち入り禁止にすることは不可能です。ヤゴやオタマジャクシを食べるザリガニがいっぱいいる中で、どうしたら生き延びることが出来るでしょうか。共存は可能なのでしょうか。なお、トンボが来て産卵するだけではビオトープ池やトンボ池とは言えません。ヤゴが育ち、トンボになって飛び立ってはじめてビオトープやトンボ池と言えるのです。(坂本 郁子)。

第16回 環境なんでも見本市(会場:エコポリスセンター)

日時: 2月4日(土) 13:00~16:00

2月5日(日) 10:00~16:00

いたばし水と緑の会も板橋の自然と外来生物をテーマに出展します。

4日(土)は準備のため10時エコポリスセンターに集合願います。

ドキュメンタリー映画「天に栄える村」3.11 板橋上映会

特別講演会「福島—食の前線を知ってもらおうということ」(講師:吉成邦市氏)

日時: 3月11日(土) 13:00~16:00

場所: 板橋区立グリーンホール(東上線大山駅、三田線板橋区役所前駅徒歩5分)

主催: 3.11から未来を拓く会

参加費: 1000円

問合せは: 坂本まで(090-4618-1295 mizumidori@nifty.com)

活動のお知らせ

運営委員会：1月28日（土）12：30～13：30

2月25日（土）12：30～13：30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します（ラーメンしらかば）。

連絡先；坂本（090-4618-1295）

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：3月18日（土）12：30～

活動の問い合わせは事務局 瀬田（3969-7124）まで

活動予定いろいろ

1 赤塚ピオトープ（赤塚トンボ池、大仏下ミニトンボ池、バッタ広場）の環境整備と観察。

集合はいずれも赤塚トンボ池前（板橋区立美術館そば）

バッタ広場では冬の手入れをします。ササを刈り、木を切り詰めるなど。トンボ池では、現在水を抜いていますが、池底の防水がしっかりしているので、なかなか干上がりません。水をポンプで排水して干上がったらゴムシートを剥がして自然に排水するようにしなければなりません（うまくいくかどうか）。棚田の土手も修理します。

1月28日（土）10：00～11：30 トンボ池

2月18日（土）10：00～11：30 未定

2月25日（土）10：00～11：00 未定

3月18日（土）10：00～11：00 未定

2 日暮台公園樹林地の観察プラスα

（樹林地内の推移と林縁植物を観察、様子を見て林縁の草取りを少々）

2月11日（土）、3月11日（土）いずれも10：00～11：30

日暮台公園前集合

● いたばし水と緑の会のURL

<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

●ピオトープ管理のボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺（赤塚トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの管理作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。